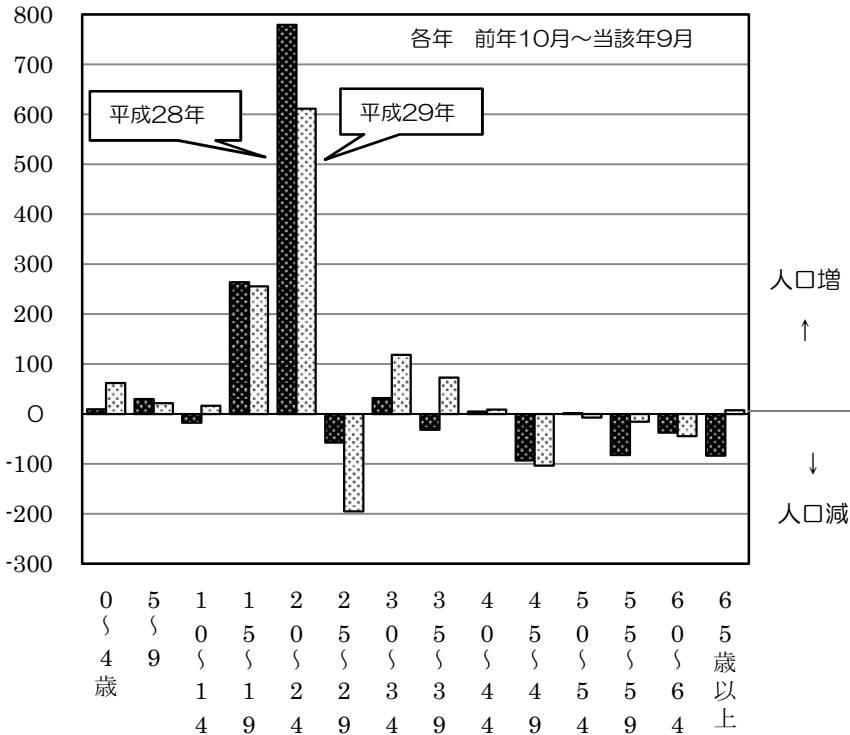


千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1:年齢5歳階級別社会増減数（平成28年と平成29年の比較）

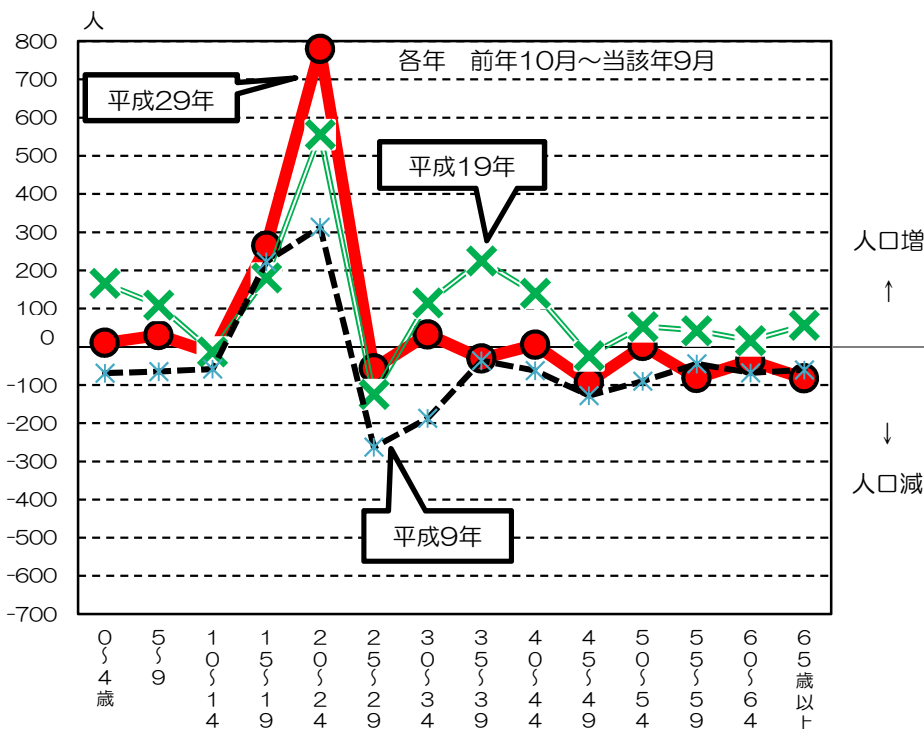


平成28年と平成29年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で大幅な社会増（本区に転入超過）がみられます。

その他の年代をみると、平成28年は社会減であった10～14歳、35～39歳が平成29年には社会増（本区に転入超過）に転じています。

また、45歳以上は平成28・29年ともに社会減（本区からの転出超過）の傾向がみられます。

図2:年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成9年から平成29年までの10年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられませんが、20～24歳は、平成9年は約300人の社会増でしたが、平成19年、平成29年はそれぞれ約550人、800人の社会増となっています。

また、平成19年以降の全体的な社会増減は社会増の続く傾向が見られます。